

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価

令和4年1月19日
江別市立大麻小学校

1. 本年度の重点目標

◎「すすんで取り組み、高め合う」大麻の子 ～伝え合い 認め合い 高め合い～

- 進んで学び、生き生き表現できる子 ○目的を理解して、最後まで行動できる子
○自ら進んで誰にでも挨拶できる子 ○互いに認め、思いやる子

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	◎「すすんで取り組み、高め合う」大麻の子 ～伝え合い 認め合い 高め合い～ ○進んで学び、生き生き表現できる子 ○目的を理解して、最後まで行動できる子 ○自ら進んで誰にでも挨拶できる子 ○互いに認め、思いやる子	B	「元気にはい」「進んではい」「最後まではい」のスローガンのもと、お互いの気持ちや立場を理解し、楽しく学校生活を過ごす児童の姿が多く見られた。確実に話を聞き、きまりや約束を守ろうとする意識、係や委員会活動、行事等への参画意識の高さも感じる事ができた。 しかし、自分の思いや考えを表現する力、主体的に判断する力に弱さが見られるため、指導の工夫・改善を図っていく必要がある。学級経営・学力向上の全体計画に示されている具体策について、今一度共通理解を深め、全教職員が一体となって課題の解決に取り組んでいく。	A	A
教育課程学習指導	①学習指導要領への対応 *学力向上の取組 *教育課程 *新型コロナウイルス感染症に関わる対応	A	コロナ禍（新たな学校の生活様式）に対応した教育活動や取組、学校行事の変更等、感染症対策を施し可能な限り感染リスクを下げながら、教育課程を確実に進めることができた。実態の分析をもとに重点化し、計画的に算数の習熟度別指導やTTによる指導、また個別指導の充実を図ることができた。 今後も、タブレット端末の有効活用を図り、さらなる授業改善に取り組んでいく。学年ごとの学習検定を実施し、基礎基本のさらなる定着を図る。	A	A
生徒指導	②予防的・積極的生徒指導 *学校いじめ防止基本方針に基づく取組 *生徒指導体制の強化 *安全指導	A	特別支援教育の視点から、一人一人の児童の姿に目を向け、心のケアに努める体制をとった。情報や具体的な対応などの共有化を図り、組織的に迅速な対応を図ることができた。児童会では、「おもいやり集会・いじめをなくそう宣言」「あいさつ運動」など、児童が主体となって取組を進めることができた。 また、校区内の商業施設や店舗との情報共有を図り、安全対策を要望するなど、通学路等の安全対策を施した。 今後も個々の児童の状況を的確に把握して対応する予防的生徒指導、積極的生徒指導、地域と連携した安全確保に全教職員で取り組み、環境を整えていく。	A	A
その他	③「学びに向かう力」を育てる授業づくり、学習づくり *研究主題の解明に向けた計画的取組	A	外国語・外国語活動の授業研究を中心に、「学びに向かう力」を育てる授業改善、学習環境づくりを進めることができた。今年度は英語検定を行い、英語を学	A	A

<p>* 学校課題に即した研究内容 * 学び続ける教師</p>		<p>ぶ意欲及び表現力を高める取組みを進めた。また、タブレット端末の導入に伴う活用法の研修を行うことができた。今後も学校課題に対応した研修、質の高い授業づくりをめざして組織的・協働的に授業研究を進めていく。</p>		
<p>④ 健やかな体を育む取組の工夫 * 体力向上の取組 * 健康の増進に向けた取組</p>	A	<p>児童の安全・安心を最優先に諸活動を計画、実施することができた。7月に次実施した運動会では、熱中症対策として児童用テントを設置した。感染症対策を施した中で、今年度も全校よさこいを取り入れ、異学年での学び合いのよさを生かしながら活動を進めることができた。</p> <p>縄跳びの取組では、目標・内容の視覚化など、児童が意欲的に練習に取り組むことのできる環境づくりを工夫し、2年振りに長縄大会を実施した。学級としての取組により、体を動かすことの楽しさを味わわせることができた。</p> <p>今後も、全校で実施した新体力テストの結果をもとに、日常から体力向上と健康の増進について全校が同じ目標に向かって活動することができるよう工夫を図っていく。</p>	A	A
<p>⑤ 豊か・確実な情報の発信 * 効果的掲示 * 読書活動の充実 * 学習環境整備</p>	A	<p>メール配信システム、ホームページやブログを活用し、様々な情報の発信と集約等、保護者との双方向の情報交換を行った。また、校門横に掲示板を新設し、学校便り等を掲示することで、地域への教育活動の周知を図った。</p> <p>2年振りにPTAによる図書ボランティアの活動を行うことができ、保護者や児童にとって充実した時間を設定することができた。今後も、必要に応じてメール配信システム、学校・学級だよりなどの様々な手段を活用して、保護者や地域住民に充実した情報を発信できるよう努めていく。</p>	A	A
<p>⑥ 連携 * 組織としての実践</p>	A	<p>感染症対策や通学路の安全確保、気象状況に関わる対応や日常的な情報発信など、保護者や地域、関係機関との連絡調整を図ることができた。喫緊の課題に対し、校内組織を機動的に活用し、対応することができた。また、毎月の職員会議でミニ研修を行い、教職員の資質向上に努めることができた。</p> <p>今後も、適切な情報収集とともに目標の進行管理を行い、組織的な対応のさらなる充実を図っていく。</p>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- 自己評価・改善策については適切である。
- 具体的な方策を立てられていることが指導につながり、子どもの成長にも影響する。
- 学校の取組みのすばらしさ、大麻小学校のよさを発信できる機会があればより良い。
- 地域で接することで、1年生になってからの成長を感じる場面がある。
- 授業参観（秋）をして、すばらしい子どもたちの姿、高学年をあこがれとしている子どもたちの姿を実感した。
- 地域でも挨拶ができて、地域の方からも高い評価をいただいている。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない